

事業名	困難を抱える青少年のための『ぷらっとホーム事業』		団体名	フリースペースあかね			事業総額 (決算額)	¥2,508,500
			担当課	教育委員会指導課 地域子育て支援課				
NO.	評価項目	5	4	3	2	1	評価の理由	
		多くの成果を得られた	想定以上の成果を得た	概ね想定どおりだった	課題が残った	多くの課題が残った		
1	協働の相乗効果、波及効果は生まれましたか？		○				市関係団体・県関係団体・その他民間団体からのケースの紹介、ケース会議への招集が去年度より増加した。	
2	提案団体と岡山市の役割・責任の分担は当初の予定どおりに実行されましたか？				○		適応指導教室や教育相談室など、岡山市の窓口になっている団体からの具体的なケース紹介・情報共有などの依頼がなく、相互の活動内容など情報交換の仕組みを新たに作る必要性を感じた。	
3	協働事業のモデルとなることを意識して、今後につながる成果を生み出すことができましたか？	○					平成29年度フリースペース補助事業または、平成30年度南区適応指導教室の委託などに向けて、今後も定期的な定例連絡会を持つことになった。	
4	当初に設定された事業目標を達成することができましたか？		○				居場所事業・訪問相談などは無支援者を支援につなげることに成功し、及び社会復帰者を出すことができた。今回新たな試みであった、学習・就労支援は前半期での課題を活かし、後半期では多くの利用者に利用してもらうことができ、概ね目標は達成されたと思われる。	

事業名	困難を抱える青少年のための『ぷらっとホーム事業』	団体名	フリースペースあかね	事業総額 (決算額)	¥2,508,500
		担当課	教育委員会指導課 地域子育て支援課		
5	今後の展望について(NPOより)	平成26年～27年度の市民協働推進モデル事業を行う中で、現在の不登校や引きこもりの問題に対して多くの共有認識を見つけることができた。また行政だからできること(学校や適応指導教室など多くの不登校児に適応指導及び学習などの支援ができることなど)、民間だからこぞできること(学齢期や青年期など年齢的な制約を受けず、切れ目のない支援が行えること、適応指導に馴染めない子への個別支援が行えることなど)も確認をしようことができた。 平成29年度フリースペース補助事業または、平成30年度南区適応指導教室の委託などに向けて、今後も定期的な定例連絡会を持つことになった。			
	今後の展望について(岡山市より)	【指導課より】岡山市の不登校児童生徒の出現率は依然として全国平均を上回る高い水準にあり、支援の内容や方法の充実を図る必要がある。そのような状況の中、本事業における協働を通して、支援を必要とする子どもたちの状況を共通理解したり、支援場所や内容を相互に紹介したりすることができ、支援の輪が広まった。一方、岡山市は現在、適応指導教室を4室設置しているが、北区に2カ所、中区・東区に1カ所ずつで、南区には設置できていない。市南部の不登校児童生徒等が利用できる施設の設置や居場所づくりが求められる中、民間施設との連携を更に進めることは、大変重要であると考えている。今後は、効果的な学校との連携の在り方や、市南部の支援を協働で行うことについての研究等について、連携を深めていきたい。 【地域子育て支援課より】これまで無支援状態だった青少年に対し、支援に繋げることができた点は事業効果が高い。今後も、無支援状態の青少年の掘り起こしが可能であると考えられる。また、就労支援事業において、実際に就労を果たしたり、就労に近づいたりしている点についても、事業効果の高さがうかがえる。事業の方向性は正しく、今後粘り強く取り組むことにより、困難を抱える青少年の解消に繋がるものとする。			
6	総評(ESD・市民協働推進センター)	モデル事業を実施するにあたり、定期的集まる機会を設け、不登校や引きこもりの課題に対して行政・NPOそれぞれの共有認識を深めることができました。 実際に行政とNPOそれぞれの役割を明確に捉えることができ、今後の支援の在り方を具体的に話し合うことができたのは良い成果だといえます。次年度以降を想定し、話し合った内容を実現するのは積み残しとなったため、引き続き定例連絡会として共有の場を設けることで、モデル事業の一步先の検討を進めることを期待しています。			
7	目標管理(ESD・市民協働推進センター)	達成できた目標		達成できなかった目標	
		<p>目標①関係課との定期的な情報共有 結果①年間を通じて約2か月に1回のペースで会議を開催し、事業の進捗だけでなく、岡山市の現状や今後の展開に関する情報を交換することができた。</p> <p>目標②利用人数、訪問相談件数の増加 結果②月平均利用人数:31人(無支援状態にあった利用者:30名)、なんらかの形で社会復帰を果たした利用者:6名(進学2名、就職4名)、訪問相談件数:75回</p>			